

なっちゃん隊 深掘りレポート Vol. 8 よつ葉乳業

NHK朝ドラ「なつぞら」の舞台となる北海道・十勝は、日本有数の酪農地帯です。

今回は、十勝の酪農の始まりとも縁が深いよつ葉乳業について、振興局なっちゃん隊が調べてみました。



十勝の酪農は、明治16年（1883年）依田勉三を中心とする開拓移民団の晩成社が帯広へ入植、その2年後に当縁村（現在の大樹町）で14頭の牛を買って飼育を始めたのがはじまりと言われています。

戦後、日本人の洋食化や高度経済成長により牛乳や乳製品の消費が急速に拡大しました。同じ頃、十勝管内士幌農協組合長の故・太田寛一氏は、欧州視察で多くの乳製品工場が協同組合組織で運営され、酪農経営の安定に寄与している状況を目の当たりにします。



関係者の協力、多くの酪農家の結束もあり、昭和42年10月には、ホクレン、十勝農協連、士幌農協をはじめとする十勝管内8農協の出資で、会社設立（現在のよつ葉乳業（株））と最新鋭の輸入機械を中心とした工場（現在の十勝主管工場）の完成に至ります。

よつ葉乳業十勝主管工場は、十勝のほぼ真ん中の音更町に位置し、今では11の農協から年間60万トンの生乳を受け入れてチーズやバターなどの乳製品を製造しています。工場では、製造工程の見学や牛乳の試飲、乳製品の製造過程が楽しく学ぶことも出来ますよ。

